

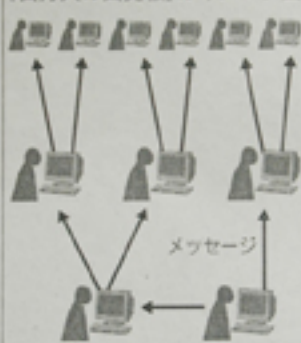
## NPO法人の桐生情報ネット

## 100万人の電子回覧板開発

## まず打ち水運動呼びかけ

特定非営利活動法人(NPO法人)の桐生地域情報ネットワーク(群馬県桐生市、塩崎泰雄理事長)はサーバーを介さず端末同士で通信するピア・ツー・ピア(P2P)技術を使った「百万人の回覧板」を開発した。まず地域ぐるみの温暖化防止運動「打ち水大作戦」への呼び掛けに使いたいとなった。五つのNPO法人で構成する打ち水大作戦本部(尾田栄章代表)が七月からの採用を決めた。

「百万人の回覧板」のイメージ図



趣味、サークル、郵便番号などでグループ分けし、集数的に送信

百万人に一つのサーバーからメッセージを送る。P2P技術を使い、一つの端末が二つ、通常、半日以上かかる。

配信するように設定すれば、集数的に伝達先が増える。テキスト形式で一文字以内を送信すると、約三十秒で百万人にメッセージが届く。

桐生地域情報ネットの百万人の回覧板はこの仕組みを使った電子回覧板。ソフトはNTTネットワークサービスシステム研究所主任研究員の原合隆成氏が推進する「意味情報ネットワークアーキテクチャー」に準拠。メッセージは地域、趣味、サークルなどで分類される相手先に送られる。住所やメールアドレスなどの個人情報を入れずに連絡できる。

ソフト採用を決めた打ち水大作戦本部は、環境

桐生地域情報ネットはソフト開発会社プレス

ソフト採用を決めた打ち水大作戦本部は、環境ソフト開発会社プレス

桐生地域情報ネットはソフト開発会社プレス